

平成16年(行ウ)第14号 公金支出差止等請求住民訴訟事件

原告 市民オンブズパーソン栃木 外20名

被告 栃木県知事 福田 富一

## 証拠説明書

2010(平成22)年6月10日

宇都宮市地方裁判所 第1民事部合議系 御中

原告ら代理人 弁護士 大 木 一



号証	証拠の標目(原本/写し)	作成年月日	作成者	立証趣旨
甲B 134	「ハッ場ダム建設事業について(回答)」と題する書面 /写し	2008.09.01	国土交通省関東 地方整備局長菊 川 滋	貯留異数法とは、流域内に降った雨がその地域に貯留され、その貯留量に応じて流出量が定まると考えて、流出量を推計する流出解析の手法である。具体的には、流出量を求めようとする地点(利根川では八斗島地点)の上流を支川の合流などを考慮して幾つかの小流域と河道に分割する。分割した小流域や河道をつなげていってモデル化し、このモデルに降雨を与え、小流域や河道での貯留量に対して、それらの時間差を考慮しながら流出量を計算していき、その流出量を上流から下流へと引き渡し、合流させていく。このような計算を各時間毎に行い、最終的に求めようとする地点の流出量を計算するという手法であること等。
甲B 135	「水源かん養機能の指標—保水能、浸透能の意味と流域貯留量について—」と題	2008.12	藤枝基久	森林土壌の保水能(の平均値)は20.0mm、流域貯留量(の平均値)は130mmであること、保水能は空の

	<p>する書面  ※社団法人大日本山林会発行・月刊「山林」1495号所収  ／写し</p>			<p>水槽の全容量を評価し、流域貯留量は水のある水槽（自然状態）への追加容量を評価することを意味するので、保水能は水源賦存量を、流域貯留量は洪水軽減量を示すこと等</p>
甲B 136	<p>「森林流域の保水容量と流域貯留量」と題する書面  ※独立行政法人森林総合研究所・研究報告No.403号所収  ／写し</p>	2007.06	藤枝基久	<p>全国50例の調査データのうち、利根川上流域の宝川での4流域の調査データでは、最大流域貯留量が80.7mmから207.5mmで、平均値は130mmであること等</p>
甲B 137 の1 ～3	<p>2010年1月16日付け東京新聞朝刊の記事  ／写し</p>	2010.01.16	東京新聞	<p>さいたま地裁の調査囑託に対する関東地方整備局の回答（甲B123）中の八斗島上流域の流域定数表が、分割された54流域すべてで、「飽和雨量」を48mm、「一次流出率」を0.5としているが、これは常識外であり得ない数値であること、「飽和雨量」について最低限の100mmを採用すれば、八斗島地点の最大流量は1万2000m<sup>3</sup>/秒～1万4000m<sup>3</sup>/秒となること等</p>
甲B 138 の1 ～2	<p>2010年3月7日付け東京新聞朝刊の記事  ／写し</p>	2010.03.07	東京新聞	<p>国土交通大臣が設置した諮問機関である「今後の治水のあり方に関する有識者会議」の第4回会合で、同会議委員の鈴木雅一氏が「この事例の（八斗島上流域の）一次流出率、飽和雨量は、はげ山の裸地斜面の流出より大きい出水をもたらす。一般性を持つ定数ではないと思われる。」と発言した事実等</p>
甲B 139	<p>「2010.2.8今後の治水のあり方に関する有識者会議委員からの意見」と題する書面</p>	2010.02.08	鈴木雅一	<p>国土交通大臣が設置した諮問機関である「今後の治水のあり方に関する有識者会議」の第4回会合に、同会議委員の鈴木雅一氏が提出した資料中に、「この事例の（八斗島上流域</p>

				の)一次流出率、飽和雨量は、はげ山の裸地斜面の流出より大きい出水をもたらす。一般性を持つ定数ではないと思われる。」との記述がある事実等
甲B 140	『特定都市化可 浸水被害対策法施工規則』の「流出雨量の最大値を算定する際に用いる土地利用開態ごとの流出係数を求める告示」の別表	2004	国土交通省	『特定都市化可 浸水被害対策法施工規則』の「流出雨量の最大値を算定する際に用いる土地利用開態ごとの流出係数を求める告示」の別表では、流出係数が、「山地」では0.30、「林地、耕地、原野その他ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められていない土地」では0.20とされている事実。
甲B 141	『緑のダム』（築地書房）中の『脱ダムから『緑のダム』整備へ』	2004. 12. 20	加藤英郎	長野県で田中康夫元知事によって、2000年12月に設置された「森林（もり）と水プロジェクト」で、薄川の大仏ダム計画を検証するに当たって貯留関数法を用いたが、①実測データを使ってモデルを作成する、②土壌学的手法によって飽和雨量を決める、③先行降雨があるかどうかでモデルを使い分けるという手法を用いたところ、これまでと異なる回答がえられたこと、飽和雨量が100mm以下というのは小さすぎる事等